

調理をアシストする AIキッチンの研究

ご購入はこちら

橋本 敦史

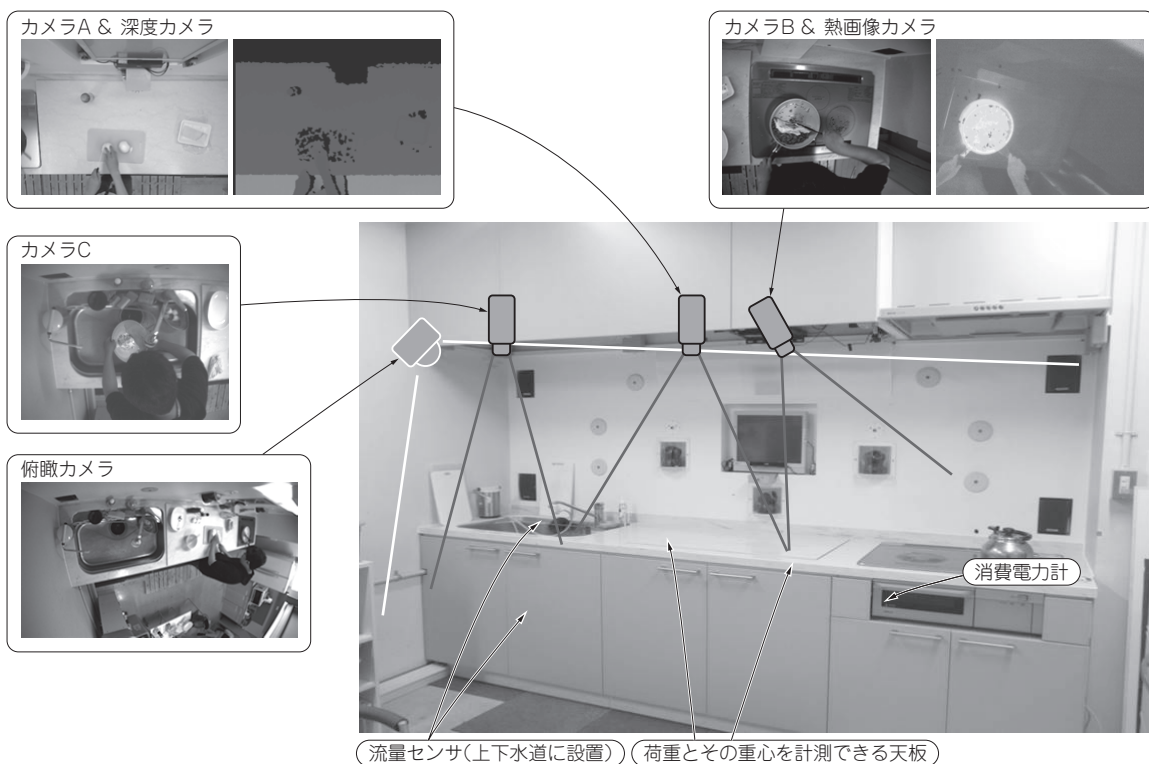


写真1 行動を予測して調理をアシストしてくれるスマート・キッチン

「食」は健康な体を作る上で非常に重要な要素です。それにも関わらず、われわれが実際に摂取した食事についての情報は全くと言ってよいほど進んでいません。

筆者はさまざまなセンサを備えたキッチン(写真1)を作成し、観測データに基づいた調理支援により価値を提供するシステムの研究を行っています。

本稿では食の情報化を目指したスマート・キッチン・システムを例に、作業ナビゲーションにおいて重要な人の作業のモデル化について解説します。また、そのモデルを中心とした観測データ、自然言語、プログラムの変換に関する近年の取り組みを紹介します。

調理作業の記録

調理作業を記録しておくことで、例えば病気になってから、健康だった頃の食に関する履歴を振り返ることができます。活動量計などの運動履歴と併せて、食事と病気との関連性を解明するための疫学的なビッグ・データを獲得することにもつながります。

病気を未然に防げる、つまり病気の少ない社会は個人の幸福追求と社会の医療費負担軽減の両方への大きな貢献が期待されます。